



リーダー! 今までありがとう! ～ 6年生を送る会 ～

3月3日(木)、「6年生を送る会」が行われました。「6年生クイズ」「全校ゲーム(無限じゃんけん列車)」を全校一緒に行った後に、これまでお世話になった6年生に、その「思いをカタチ」に

して見せてくれました。これまでの感謝の思いをどのように6年生に伝えるのかを、各学年でいろいろと話し合い、練習を積み重ねた上での発表だっただけに、あったかい思いに包まれた時間となりました。下級生が、6年生をどれだけ慕っていたのか、どれだけ別れを惜んでいるのかが伝わってきて切なくもありました。(ぐっときて涙をこぼしている6年生もいましたね。)そして、6年生からは、各学年に令和4年度の年間カンレダーと、一人一人へのあったかいメッセージ、さらに合奏による素敵な音楽が贈られました。各学年で「思いやりのバトン」がしっかりと渡されていました。ありがとうございました。

最後にこの会を企画・運営してくれた5年生! 6年生に思いをはせ、自分たちで考え、自分たちだけの力で全校を動かしたことは、今後の皆さんにとって、とても大きな学びとなったことと思います。6年生から5年生に、正式にリーダーのバトンを渡された瞬間でもありました。会が終わった後も、後片付けを一生懸命にやっている姿も素敵でした。体育館を出て行く前に、全ての学年が5年生に「今日は、ありがとうございました。」と、声をそろえてお礼を言っている姿を見たときに、これが「たかせっ子なんだよな!」と感動しました。たかっせ子の思いをカタチとして見る事ができた時間でした。あたたかな心の交流がたくさん見られたとても素敵な「6年生を送る会」でした。

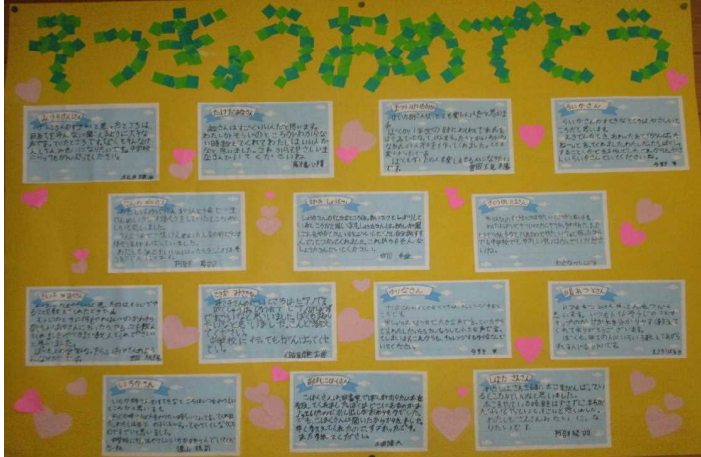




6年生の
保護者の皆様へ
全校児童から贈
られた素敵なメッ
セージの中身は、
卒業式の際にじっ
くりとご覧いただ
ければと思います。



【卒業生へのメッセージ】



勢力がカタチに! ～がんばりを称えて～

【第44回児童生徒県南美術展】

<奨励賞>

柴田 さん (6年) 「ブランコから見た楽しい景色」
 真坂 さん (5年) 「クラゲのまちで海の旅」
 齋藤 さん (3年) 「みんな集まれ!」
 阿部 さん (2年) 「町でドライブ」
 安倍 さん (1年) 「つちのなか たんけん」

<入 選>

齋藤 さん (6年) 「あの日の思い出」
 稲富 さん (5年) 「ひとあし先に四季を感じて」
 大友 さん (4年) 「わたしの木」
 三浦 さん (4年) 「さびしい季節になってきた」
 佐藤 さん (3年) 「目玉出せ!」
 高橋 さん (2年) 「しゅうかくだ!!」
 今野 さん (1年) 「学校のなかまたち」

【第61回 秋田県児童生徒美術展】 <佳 作>

松井 さん (6年) 「三猿にまぎれてみた」 鈴木 さん (5年) 「くじらに乗って世界の旅へ」
 高橋 さん (4年) 「わたしの木」 柴田 さん (3年) 「ダンゴムシ発見!」
 宮田 さん (2年) 「しゅうかくだ!」 直井 さん (1年) 「バッタさがし」



今年も「五行歌」で 「今」を切り取るります

5・6年生の「今」



今年度、町行事の「ゆきとぴあ」は、コロナ感染拡大防止から規模を縮小しての実施でした。「ゆきとぴあ」前には、例年、高学年が「五行歌の講習会と歌会」を行い、豊かな発想で自らの思いを、のびのびと文字にしてくれていましたが、昨年に引き続きそれも行えない状況となりました。講習会と歌会は行えませんが、5・6年生の皆さんの「今の思い」を五行歌で切り取ってもらう場を用意していただきましたので、そこでの入選作品の4編をご紹介します。

【 草壁賞 】

母に口ごたえをした。おこられた。
今日も母とたたかった。
私はマウンテンゴリラ。
母はティラノサウルス。
ティラノサウルスは、今日も強かった。
(6年 稲富 さん)

【 草壁賞 】

かまくらづくり
一生けん命つくったかまくら
できたぞできた
午後見に行った
そのときにはもう兄のもの
(5年 鈴木 さん)



【 ゆきとぴあ賞 】

スケートに行った
がんばってすべっていたら
友達から「おにごっこしよう」とさそわれた
おにからにげて必死にすべった
走った方が速かった
(6年 三浦 さん)

【 ゆきとぴあ賞 】

雪を見ていると思う
自由だなって
とけるしいろんな形にかたまるし
でも気づいた
自分も気持ちがコロコロ変わるし自由だなって
(5年 佐藤 さん)

GAO年賀状コンテスト2022

【佳 作】

- ・渡部 さん (2年)
- ・安倍 さん (1年)
- ・今野 さん (1年)



研究の頑張りがカタチに!



日頃の生活での当たり前について疑問に思ったり、身の回りの出来事をきっかけに疑問に思ったことを調査研究し、発表する場として「湯沢市雄勝郡理科研究発表会」というのがあります。湯沢雄勝の理科を専門的に勉強している先生方が中心となって活動しているのですが、児童生徒の発表会自体は今般の状況で行えておりません。そこで、夏休みの自由研究の中で、理科研究発表会で是非発表してほしいレベルのものを郡市内から一堂に集め、「令和3年度 理科の子ひろば」としてCDにまとめることとなりました。高瀬小学校からは、次の3名の人の研究が掲載されましたので、ご紹介いたします。

- ・稲富 さん (6年) 「ストームグラスを観察してみた」
- ・稲富 さん (5年) 「アリジゴクを育ててみたら パート2」
- ・佐藤 さん (2年) 「なにゼミかな？」

これからも「？」を大切に、疑問をどんどん調べてほしいと思います。

(賞状等はありませんが、3名には研究の記録が入ったCDが贈られています。)





運営委員会の活動として、毎週水曜日に取り組んできた「空き缶回収」での収益金で、「聴く絵本 せかいどうわベスト 100」と「ベスト・オルゴール ジブリの世界」を購入することができました。学習用具がある中、空き缶を持ってきてくれた皆さん、空き缶のご協力をしてくれたお家の方々、そして毎週、回収と呼びかけを欠かすことのなかった運営委員会の皆さん、本当にありがとうございます。早速、給食を食べながらみんなで楽しんでいます。（4年分の収益金ですので、卒業した先輩たちにも感謝しなければいけませんね。）

3月の全校集会

校長あいさつ 3月1日

今日から3月です。今の学年で生活できる日数も、今日を入れて、6年生 12日、1年から5年生で 14日となりました。次の学年という新たなステージに行く準備は大丈夫ですか？

みなさんはここまで、自分自身の目標に向かって、来年度の準備をしてきたことと思いますが、その準備に校長先生から、一つだけ

加えてもらいたいものがあります。まずは、この映像を見てください → 映像スタート

映像…「イソップ物語 粉屋とロバ」

あらすじ…「粉屋のおじいさんと孫がロバを市場に売りに行きます。ロバを引いて二人が歩いて行くと、途中で会った人に、ロバがいるのに歩いているなんて馬鹿げていると言われます。そこで、孫をロバに乗せて歩きます。すると今度は年老いたおじいさんが歩いて、子どもがロバに乗っているのは馬鹿げていると言われます。そこで今度はおじいさんがロバに乗ります。すると又、子どもを歩かせて自分だけ乗っていると非難を受けます。そこで今度は二人で乗ります。すると、二人も乗ったらロバがかわいそう、これではロバが売り物にならなくなると言われます。そこで二人は、ロバを丸太にくくりつけて運びます。ロバが苦しそうです。道行く人には死んだロバを運んでいるのかと言われてしまいます。二人が川を渡る時にロバが暴れ、そしてその重みに耐えられず、ロバを川に落としてしまいます。そしてロバは溺れて死んでしまいました。」

みなさん、このおじいさんと孫をどう思いましたか？周りの人の考えを素直に聞いて、行動に移すことのできる優しい二人だと思えますが…。「う～ん…何かおかしいなあ」と思いませんか？どうしたら、ロバは、死ななかつたのでしょうか。このおじいさんと孫は、町にロバを売りに行くまでに、5つの方法でロバを運んでいましたね。1：ロバには誰も乗らず、二人でロバをい引く 2：孫がロバに乗る 3：おじいさんがロバに乗る 4：二人一緒に乗る 5：ロバを二人で担ぐでした。何がおかしいのでしょうか…。そうですよね。「自分で考えることをしない」で、「周りの人が言うことを、そのままやっている」ところですよ。

それでは、みなさんには、粉屋のおじいさんと孫のようことは、これまでなかったですか。周りからのアドバイスを聞くことは、大切なことですが…それと同時に、しっかりと「自分の頭で考え」、「自分の意見・思い」をもっていないと、未来が残念な結果になってしまいますよね。「自分で考える・決める力」をもってほしいと思います。次のステージに行くまでには、まだ1ヶ月もあります。「自分で考える」「自分で決める」ことができるように、まずは、「自分はどうしたいのか」「自分はどう考えるか。」ということをやってみてください。粉屋のおじいさんと孫のように、「大切なものを失うことのないように」是非、自分で決めてください。

最後に、町にロバを売りに行くまでに5つの方法がありました、「この二人はどの方法で行けばよかったと思いますか？」「あるいは、他にもっとよい方法があったでしょうか？」あなたはどうか考えますか？学級で話合ってみてください。

